

## 中山間地域等直接支払交付金の活用による棚田の景観保全

○急傾斜地での営農活動の維持に中山間地域等直接支払交付金を活用。

## 地区の課題

## 少子高齢化による担い手不足

当地区も他の中山間地域と同様、小中学校の児童は数名、高齢化率は40%を超え、少子高齢化が進んでいる。担い手不足や地域の活力低下が課題。



【黄金色に染まった棚田の稲穂】

## 取組内容

## 棚田の保全

超急傾斜加算を鳥獣害対策や農産物加工品製造に活用し、棚田の維持管理を継続。

## 都市農村交流活動

都市農村交流施設「越畑フレンドパークまつばら」を拠点として、蕎麦の提供や地元農産物の直売等に取り組む。また、「岩陰ファンクラブ」では収穫体験等による地域活性化を図る。



【都市農村交流施設「越畑フレンドパークまつばら」】

## 取組の成果

## 棚田の景観保全

美しい棚田等の景観を目当てに訪れる来訪者が多く、地元農家も景観の大切さに気付き、維持管理への意識が高まっている。令和3年度には「つながり棚田遺産」に認定された。

## 共同利用機械の導入

バックホー（油圧ショベル）を導入し、法面などの補修に活用。



【バックホーを使った補修作業】

## 取組地域の概要

## ○位置



## ○地域の概要

京都市の北西部に位置し、広大な棚田を有し、高品質な水稻栽培が行われている。

## ○主要作物

水稻、花き（オミナエシ、ホオズキ）、そば等

## ○集落協定の概要(R3現在)

面積：23.3ha(田)、0.9ha(畑)  
交付金額：628.5万円  
(個人配分89.4%、共同取組活動10.6%)  
構成員：農業者39人、  
農地所有適格法人1法人  
協定開始：平成12年度

## 1 地区の概要

## (風光明媚な嵯峨越畑へようこそ)

——地区の概要を教えてください。

嵯峨越畑地区は、棚田とかやぶき屋根が残る自然豊かな地域で、愛宕山の腰に位置することから「腰畑」と呼ばれていました。

当地区は、農業用水が少ない地域だったことから、明治4年に村人総出で芦見谷より3km以上におよぶ水路を開削。その後、水源である京北細野村と交渉し、昭和16年に上大谷山をくりぬき、隧道を完成させました。平成22～23年度に実施した農業生産基盤整備事業により、隧道トンネルの改修や、農道・水路整備が行われ、安定して農業用水を確保できるようになりました。

主要作物は、水稻のほか、昔はトマト、高原レタス、大蕪を栽培していましたが、最近では、花き（オミナエシ、ホオズキ）が主流になっています。また、米は食味値が高く、高評価を得ていることから、京都市内のホテルや飲食店、個人への販売など、ほとんどが独自ルートにより販売されています。



【美しい棚田の風景】

## 2 地区の抱える課題

### （20年前から地域の活力の低下が懸念される状況）

——地区はどのような課題を抱えていましたか？

当地区も他の中山間地域と同様、小中学校の児童は数名、高齢化率は40%を超え、少子高齢化が進んでいます。また、農業の担い手も不足するなど、地域の活力が低下してきています。

約20年前に、地域が存続できなくなる前に何とかしなければという地元意識の高まりから、以前からそばを作っていたこともあり、地元産のそばを使った「十割蕎麦」の提供や地域農産物を販売する都市農村交流施設「越畑フレンドパークまつばら」を始めました。

## 3 取組の経緯・きっかけ

### （信頼を寄せる行政担当者の支援）

——蕎麦による都市農村交流の取組を始めたきっかけを教えてください。

#### ◆ 都市農村交流施設「越畑フレンドパークまつばら」

地域を何とか活性化していきたいという中で、地域外の方のアドバイスも参考にしながら、女性加工グループが中心となって話し合いを重ね、京都や大阪から比較的近いという立地条件を生かし、美しい棚田を眺めながら地域産の美味しい蕎麦が楽しめる「蕎麦屋」をやってみようということになりました。

開業までには様々な課題が出てきたものの、京都府や京都市の担当者が親身になって相談に乗ってくれたおかげで、地域が一丸となって取り組むことができ、無事、開業することができました。

## 4 取組の成果

（<sup>とういん</sup>「越畑フレンドパークまつばら」が雇用を創出。また「宕陰ファンクラブ」をきっかけに移住者を受け入れ）

——取組の成果を教えてください。

#### ◆ 棚田の保全

中山間地域等直接支払交付金等を活用し、超急傾斜地における営農活動を維持してきた結果、美しい棚田景観が保全され、令和3年度には「つなぐ棚田遺産」にも認定されました。

#### ◆ 都市農村交流施設「越畑フレンドパークまつばら」

棚田が広がる田園風景の中、四季折々の景色を眺めながら食べる「挽きたて、打ちたて、湯掻きたて」の十割蕎麦が人気となり、年間約2万人が訪れる人気スポットとなっています。蕎麦を目当てに地域を訪れた方は、待ち時間に景色を楽しんだり、散策をし、また併設されている直売スペースで、地元産の米、果樹（ブドウ、リンゴ）、野菜、お酒、加工品なども購入することができます。

はじめは地元有志が15名程度で運営していましたが、今はパート従業員も雇用できるようになり、「蕎麦×棚田」の地域おこしが成功しています。



都市農村交流施設「越畑フレンドパークまつばら」

営業時間：11時～15時  
（火曜日定休日）

——ほかに何か変化はありましたか。

<sup>とういん</sup>宕陰（越畑、嵯原）地域をもっと多くの人に知ってもらいたいという思いから、平成26年度には「<sup>しきみがはら</sup>宕陰ファンクラブ」を設立し、地域が主体となって、都市部の子育て世代との交流や空き家を活用した移住・定住の促進など、地域活性化に取り組んでいます。

## 5 人材、資源、制度の活用方法、工夫

**（出来る部分は自力施工で補修・整備、棚田の美しい風景は集客のための広告塔）**

———中山間直払や地域の資源はどのように活用していますか？

### ◆ 中山間地域等直接支払交付金

超急傾斜加算を鳥獣害対策や地域農産物の加工品製造に活用することで、超急傾斜地における営農活動を継続できています。また、共同作業では、第3期対策時に導入したバックホー（油圧ショベル）が大活躍し、自分たちで小規模な農地や畦畔、農道の補修などを行っています。

### ◆ 棚田景観

「越畑フレンドパークまつばら」の来訪者の中には、棚田など越畑の美しい景観に興味を持つ人が多く、また棚田目当てのカメラマンも増えてきています。令和3年度には「つなぐ棚田遺産」に認定され、全国に宕陰地域の棚田の魅力を発信しています。

### ◆ 農道・水路整備

当初、地元では圃場整備をしたいという声が多かったのですが、棚田を目当てに来る来訪者がたくさんいる中で、今後の宕陰地域の活性化をどうしていくのかを考えた結果、現在の棚田景観は維持しつつ、営農効率を向上させるための農道・水路整備のみを行うこととしました。事業は平成22～23年度の2カ年で実施しました。

### ◆ 米

愛宕山からの清水と昼夜の寒暖差により、当地域のお米は食味値が高く、高評価を得ています。「京都府プレミアム米コンテスト」の入賞者も毎年出るほどで、米の購入希望者増に繋がっています。



【バックホーを使った浚渫作業】



【棚田一面に広がるオミナエシ】

## 6 地区の今後について

**（無理をせずできる範囲のことを継続していきたい。地域外の人をもっと受け入れていきたい。）**

——地区の今後について教えてください。

これまで様々な地域活性化の取組を行ってきたことで、今は何とか農地や施設の維持管理ができている状況です。あまり幅広くやり過ぎると手がまわらなくなるので、無理はせず、できる範囲で少しでも長くやっていきたいと考えています。

今後、地区だけで農地の維持管理が出来なくなったら、地域外の方にもお世話にならなければならないと思っています。今のところ新規就農者はいませんが、将来的には受け入れていきたいと考えています。



【棚田の冬景色】